

## 平成 23 年度「震災子ども支援室」活動報告

加藤 道代

東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター副委員長

震災子ども支援室 室長

### 概要

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により両親を亡くした子どもたち(いわゆる震災孤児)は 240 人、両親のいずれかを亡くした子どもたち(震災遺児)は 1338 人を数える(平成 24 年 1 月 17 日、毎日新聞)。震災に伴う津波被害の大きさから相当数の震災孤児が出るのが懸念され、当初は県内の受け入れ体制整備とともに、全国の施設や里親の受け入れ要請を進めていたが、結果的にはほとんどの子どもたちが親族引取となった。

こうした状況下、「震災で親を亡くされた子どもの支援に役立ててほしい」という 10 年間にわたる多額の個人寄附金の申し出が教育学研究科に寄せられた。研究科はこれを原資として、教育ネットワークセンター内に「震災子ども支援室(通称 S-チル)」を立ち上げ、寄附者の意向を受けて震災孤児・遺児に対する長期的支援に踏み出すこととした。“S-チル”には、「3 月の震災後の相談の S から始まり、子ども達(チルドレン=チル)の健やかな成長と幸せを支えることを目指す S」の意味を込めている。

平成 23 年 9 月の開室から 4 ヶ月間は、相談員(心理士)が週 1 日出勤体制であったため、実務を開始することは困難であった。そこでまず我々は、被災 3 県の沿岸部に位置する自治体と管轄の児童相談所を訪問して情報収集を行なうことに力を注いだ。その傍ら、11 月には開室式、記念シンポジウム、里親対象の研修会やワークショップ等を実施し、行政や関連団体と情報を共有するとともに、今後の課題を議論した。

相談員が常駐体制となった平成 24 年 1 月からは、支援室の本格始動に向けた準備を進めている。まず、携帯電話でも無料で利用できるフリーダイヤルを設置し、沿岸遠隔地に負担のないアクセスを可能とした。支援室周知のためのポスター、チラシ、カードは、現在作成中であり、近く自治体窓口や学校、関連機関を通じて配布予定である。なお、これらの広報物には、東松島市の小学生が支援室のために描いてくれたブドウの絵をマスコットとして使用している。また、広域にわたる地域支援の性格上、心理臨床や発達臨床だけでなく地域保健活動のノウハウや地域関連機関との連携が必須とされることから、保健師・看護師資格をもつ相談員の増員を行った。発災後 1 年にあたる 3 月には、この間被災地で日常的に子ども支援にあたってきた教員、スクールカウンセラー、児童青年精神科医の方々のご報告を中心としてシンポジウムを開催する(予定)。

次年度は、自治体や関連団体との連携をさらに進める一方、電話相談、訪問相談の体制

づくり、ホームページの充実とともに、引き続き、ニーズに応じた研修、支援者支援に応じる。被支援側と支援各団体側に関する最新の動きをとらえつつ、コンパクトで実働的な組織づくりと、柔軟で身の丈に合わせた活動を目指したい。

## スタッフ

室長 加藤道代（教育学研究科人間発達臨床科学講座 教授 臨床心理士）  
 相談員 平井美弥（臨床発達心理士）  
 相談員 押野晶子（看護師・保健師）  
 相談員 久保玲子（産業カウンセラー・在岩手）

## 平成23年度寄附金一覧

寄附者	金額
平 美都江 殿	12,000,000
京都府歯科医師会 殿	1,000,000
NPO 法人レスキュー・サポート 殿	30,000
(株) コンセプション 殿	136,050
陳 長安 殿	31,100
震災復興祈念コンサート実行委員会 殿	150,000
齊藤 尉 殿	32,136
(有) 美容室ネムノキ 殿	277,872

## 活動内容

### 1. 震災子ども支援室主催による会議、シンポジウム、研修会など

(1) 震災子ども支援室開室式（平成23年11月12日（土）、東北大学文科系総合棟11階大会議室）

(2) 震災子ども支援室開室記念シンポジウム「親を亡くした子どもに対する支援の中長期的展望」（平成23年11月12日（土）、東北大学文科系総合棟11階大会議室：参加者80名）

震災子ども支援室の開室にあたり、関連機関の方々との情報交換を行い、ご意見を頂きながら、現状と今後の課題について議論がなされた。

シンポジスト

①宮城県の現状とこれまでの取り組み

小林 一裕 / 宮城県保健福祉部子育て支援課長

②東北事務所の半年の報告

林田 吉司 / あしなが育英会東北事務所長

③社会的養護と養育者支援～親族里親を中心に～

卜蔵 康行 / 宮城県里親連合会長

④震災子ども支援室の取り組み

本郷 一夫 / 東北大学大学院教育学研究科教授

(3) 研修会「東日本大震災後のケアのあり方」(平成 23 年 11 月 19 日(土)、東北大学文科系総合棟 11 階大会議室、宮城県里親連合会共催：参加者 30 名)

震災で親を失った子どもたちを引き取るようになった親族の養育者に対し、里親連合会がチューター的な役割を果たすことが期待されている。そうした状況を踏まえ、養育里親の方々から、震災後の子どもに起こりうる変化とその対応についての研修を望む声があがった。そこでこうした要請に応じて研修会を実施した。

講師 東北大学大学院教育学研究科教授 本郷一夫

(4) シンポジウム「東日本震災後の子ども支援」(平成 24 年 3 月 3 日(土)、東北大学文科系総合棟 11 階大会議室)(予定)

東日本大震災から1年間、被災地現場で日常的に子ども支援を行ってきた、教師、スクールカウンセラー、児童青年精神科医の3名を迎えて、震災後の子どもたちを振り返り、周囲の大人に求められる今後の対応について議論する。

報告 1 教育の現場からみえる中学生の姿(震災直後から現在までの子どもたちの様子から)

鹿野宏美 / 石巻市立万石浦中学校教諭

報告 2 福島で今、何が起きているか～心のケアの今後を考える～(放射能被害を受けている福島の子どもの保護者の声から)

須藤弘美 / 福島県スクールカウンセラー

講演 震災と子どものこころ(宮古子どものこころケアセンターでのとりくみから)

八木淳子 / 盛岡少年刑務所医務課医師(児童精神科医)

## 2. 研修講師の派遣

(1) 岩手県里親連合会、宮城県里親連合会交流会：震災孤児やその養育者(里親)との交流事業に係る事前研修会(平成24年1月29日：仙台：講師・加藤道代)

(2) 気仙沼市公立保育所保育士研修会(平成24年2月24日：気仙沼：講師・本郷一夫)

### 3. 関連自治体・団体への訪問（平成24年2月20日現在）

日時	行先	日時	行先
2011/9/10	子どもの夢ネットワーク研修会	2011/11/9	個別教室・家庭教師のアップル
2011/9/14	子どもの村福岡		財団法人学習能力開発財団「Lead」
2011/9/18	仙台グリーンケア研究会講座	2011/11/16	地方仙台家庭裁判所震災対応総合窓口
2011/9/28	あしなが育英会	2011/11/30	女川町健康福祉課
2011/10/5	宮城県保健福祉部子育て支援課		女川町教育長
2011/10/11	宮城県子ども総合センター		南三陸保健福祉課
	仙台市児童相談所		塩釜市健康福祉課子育て支援課
	宮城県中央児童相談所		多賀城市保健福祉部子ども福祉課
2011/10/13	岩手県保健福祉部児童家庭課	2011/12/7	一ノ関児童相談所
	岩手県福祉総合相談センター		陸前高田市民生部社会福祉課
2011/10/19	宮城県東部児童相談所		大船渡市生活福祉部保健福祉課
	石巻市福祉部子育て支援課		社会福祉法人 大洋会
	石巻市福祉部市民相談センター		釜石市保健福祉部子ども課
	東松島市保健福祉部福祉課	2011/12/14	福島県保健福祉部児童家庭課
2011/10/24	山元町保健福祉課		福島県中央児童相談所
	亘理町保健福祉課	2011/12/15	宮古市保健福祉課子育て支援室
	亘理町保健福祉課子ども家庭班		宮古児童相談所
	岩沼市長		豊島医院
	岩沼市健康福祉部子ども福祉課		山口クリニック
	名取市社会福祉課		山田町役場健康福祉課福祉チーム児童福祉係
2011/10/31	北部児童相談所		大槌町役場民生部
2011/11/2	仙台市子供未来局子供育成部総務課	2012/1/24	あしなが育英会 陸前高田交流会
	仙台市子供未来局子供育成部子育て支援課	2012/1/29	岩手県里親会、宮城県里親会交流会
2011/11/9	宮城県東部児童相談所気仙沼支所	2012/2/6	宮城県子育て支援課
	気仙沼社会福祉事務所児童福祉担当	2012/2/10	法政大学（震災子ども支援室に来室訪問）
	児童養護施設旭が丘学園	2012/2/14	仙台いのちの電話
	ボランティアコーディネーター「菅原フォーユウ」	2012/2/16	宮城県教育庁
	気仙沼保健福祉課		仙台市教育局学校教育部教育相談課
	仙台青葉学院短期大学 グリーンケア研究会		教育企画部総務課
	「てとてとて」		みやぎ心のケアセンター企画課

### 4. その他の活動

- (1) 「震災子ども支援室」ホームページ作成
- (2) 電話相談用フリーダイヤルの設置
- (3) マスコットキャラクター選定（東松島市矢本西小学校6年佐藤美紀さん作）
- (4) 「震災子ども支援室」広報ポスター、チラシ、カードの作成、自治体と関連団体、学校に送付
- (5) 開室シンポジウム報告書（作成中）
- (6) 研修会資料の電子ジャーナル化（東北大学中央図書館）
- (7) シンポジウム「東日本震災後の子ども支援」報告書（予定）